第38回発行

ぷらんこ

令和３年３月29日(月)
おおむたこども園
金丸恵美子

卒園おめでとうございます

卒園式から、１ヶ月が経とうとしています。あの日、子ども達に手渡された卒園証書の文言は、どれ一つ同じものはなく、ひとりひとりの挑戦と情動あふれる卒園証書になっていたのではと思います。この試みはもう３年目になりました。

従来のような『あなたは、〇〇年間本園で保育を受けたことを証します』これだけでは、育ちや学びを伝えられない！それほど、この子ども達はひとりひとりが個性的で中身の濃い、園生活を送ってきているからです。子ども達のきらりと光っていた言動や心情、そして私達が受けた感動を文章に起こしました。

縄瀬小、高崎麓小、沖水小、小戸小(宮崎市)、高崎小の５つの小学校に分かれて入学する16人の子ども達へ…。　『ありがとう！』、『みんななら、大丈夫！』

劇『おむすびころりん』を盛り上げた、あじのある歌声。ユーモアのある語り口。周りを和ませる、温かい心が育っていることを証します。

けやきの木登り、勇気をふりしぼった、ターザンロープの挑戦。迷い、悩みながらも継続できる強い気持ちが育っていることを証します。

勇者のダイブ、ターザンロープへの覚悟を決めた挑戦。友達に泥団子作りを丁寧に教えること。勇気と優しさが育っていることを証します。

火の不思議、焚き火への関心の高さと知識の豊富さ。力強く、手慣れたノコ使い。毎日の日課を続けていく力が育っていることを証します。

縄跳び、竹馬。何でもこなす身体のしなやかさ。折り紙、ラQで見せる指先の細やかさ。集中して取り組む意欲が、育っていることを証します。

冒険レンジャーへの挑戦。覚悟を決めた勇者のダイブ、震えながら流した涙。目標に向かう凛とした気持ちが、育っていることを証します。

リリアンやゆびあみ、あやとり。しなやかな指先と、丁寧に教える優しさ。友達への配慮、細やかな気配りが育っています。

ボルタリングをよじ登る手と足。迷った末に跳んだ勇者のダイブ。あきらめない気持ち、継続して挑戦する態度が、育っていることを証します。

くものすわたりの高さへの克服。意を決して挑んだ、勇者のダイブ。目の前の困難に果敢に立ち向かう態度が、育っていることを証します。

高さへのこわさを克服した、竹馬八段。あなたのその姿はみんなのあこがれになりました。自分の目標に向かう態度が育っていることを証します。

ライバル心を燃やした、竹馬六段の挑戦。足の指の豆は、あなたの勲章になりました。友達と競い、高め合う心が育っていることを証します。

痛さをこらえながら、よじ登った冒険レンジャー。迷いに迷った勇者のダイブ。目の前の困難に立ち向かう力が、育っていることを証します。

紙や箱を、バックやアクセサリーに変える個性あふれるアイディア。工夫すること発想する力が、育っていることを証します。

あやとり、編みの、折り紙で見せる、手先の器用さ。竹馬や縄跳びに取り組む根気強さ。自分の目標に向かう力が育っていることを証します。

倒れても倒れても、挑戦した竹馬六段。懸命に取り組む姿は、みんなの目標になりました。困難に立ち向かう心が育っていることを証します。

スピードと高さへの恐怖心をのり超えた、ターザンロープへの挑戦。勇気を出して、自分と戦う、強い心が、育っていることを証します。

子どもの特権と言う考え方…

おおむたこども園には、『特権』と言うものがあります。これは、限定された子ども達だけができる活動のことです。例えば、５歳児ばなな組は、朝の米とぎ、うさぎのお世話、午後食後の廊下の雑巾がけ。毎日、あるいは交代で行うこの活動は課業であり、ばなな組だからできる『特権』です。扱いが繊細で技術力を求められる「剣玉」もばなな組だけです。

冒険レンジャーの挑戦は、もも、ばなな組だけの特権。だからこの１年、３歳児ぶどう組の子ども達は、やってみたくてうずうずしていたはずです。「段ボール」と「木工」、木漏れ日デッキの「制作」などの刃物を使うコーナは、３歳以上児(ぶどう、もも、ばなな組)の特権です。いちご２組さんは、触ろうとする度に、『ぶどう組さんになってからね…』とやんわりと断られてきました。特権は、活動が発達にあっているかも左右されます。『特権』があるから、優越感が生まれると同時に、『責任』と『自分がお手本』の意識も高まります。年上の友達のお手本にあこがれを持ちながら、待っていたこの１年。４月１日からの子ども達が楽しみです。

『ケツァルコアトルス』って…言えますか？

舌を噛むようなこの言葉、実は恐竜の種類です。２歳児(いちご２組)の女の子が、絵本を見ながらスラスラ言うので、可愛いやら驚くやらで、つい笑ってしましました。担任に聞くとクラスの５人全員が言えるとか…。

子ども主体の保育に大きく転換して丸４年。いろいろな場面で、子ども達の変化が見られます。特に『言葉による表現』や『伝えあい』は、目を見張るものがあります。

血が滲んでいた私の人差し指を見て、『痛かった…？』顔をしかめながら心配そうに、声をかけてくれた５歳児Ｋさん。『今日は水遊びだめだよ』と３歳児Ｎさん。４歳児Ｓ君は『花も触ったら泥んこになるからね…』みんな、優しい…。人の痛みが分っています。

昼ごはん前、独りだけで庭のハンモックに揺られていた４歳児Ｈ君を迎えに来たばなな組のＲさん。『Ｈ君、周りを見てごらん。もう誰もいないがね。もう、ご飯だよ』、『ひとりぼっちは淋しいでしょう？一緒にお部屋に行こう』と声をかけると素直に従うＨ君。手を引いて連れて行きました。優しく、諭すよう語り口は、とても威厳がありました。

砂をスコップで掘り、腰が痛くなった私に、４歳児Ｒ君が…「園長、腰が痛いの…。休んでいいよ！僕が続きをするから！」その時、もう６時前…。疲れた心と体にＲ君の優しさがしみ渡りました。

各コーナーの片付けが始まり、「砂場はどうかな？」の声に「分かった、確認してくる！」と４歳児Ｒ君。「確認って難しい言葉を知ってるんだね」と私。「確認ってまた、見てくることだよね」、「確かめるってことだよ」４歳児Ｙ君とＥ君。大人の言葉を駆使しています。

午後食後、５歳児Ｒさん。『今日のごはん、ぬちゃぬちゃしてたよね～。でも私は、あれ位の柔らかいのが好き！』Ｋさんは、『私はもう少し、固いのが良い…』、『僕は、おにぎりが好き！』とＤ君。『ごはんの固さの話だよ！』とＲさん、Ｋさん。漫才みたいな会話に、みんな大笑い。

あやとりをしていたもも組４歳児のＡ君とＨ君。次の糸取りが分からなくて困っていると。３歳児O君とＴ君が『Ｈ君を連れてくるから！』、『だってＨ君はチャンピオンだから！』と絶賛。Ｈ君(４歳児)への熱いリスペクトを感じました。よく見ていますね。

靴を座って履こうとする友達に「立って履くんだよね。着替えもたってするんだよね」と３歳児Ｎさん。「私も間違う時があるけど…」注意や指摘ではなく、ナイスなフォローに感動しました。

互いに、手に糸を掛けながらあやとりを友達に教えていた、４歳児Ｓ君。自分の両手は塞がっているのに…。「次は、お兄ちゃん指で取って…」「今取った糸の下を赤ちゃん指で潜らせて…」などと説明していました。自分の手が塞がった状態で人に教えるのは、おとなでも難しいことです。４歳児にそれができるとは…。

お世話になりました。

令和２年度もあと２日。31 日の夕方には、職員が入れ替わる予定です。辞令があり、覚悟はできているつもりでしたが、子ども達と別れる辛さ、慣れ親しんだ園舎や庭と離れることに、万感の思いがあります。庭のチューリップや桜が咲く頃に、『卒園だね』、『〇〇組さんになるね』と子ども達とのやり取りが愛おしく、年を重ねるごとに涙もろく、別れへの思いも強くなっています。

この９年間、いろいろなことがありました。教育保育を大きく転換したことは、保育者としての集大成であり最後の取り組みです。ご意見もたくさんいただきました。子どもが主体の教育保育を受け入れてくださる保護者が年々増え、良き理解者となってくださったことに感謝申し上げます。

９年間お世話になりました。ありがとうございました。